

日本組織培養学会

昭和59年3月1日発行

会員通信

第52号

発行責任者

三井洋司・山本清高（老人研）

菅 幹雄（東北大・抗研）

井出利憲（広島大・医）

東京都板橋区柴町35-2（〒173）

東京都老人総合研究所

電話 03-964-1131

## § 会長・幹事選挙の結果について

昭和59年～62年度会長，59・60年度幹事選挙は昨年12月20日締切られ，川崎医大にて木本哲夫会員の立合いのもと，開票の結果，下記のように決定しました（敬称略）。

会長 当選 佐藤 二郎 50 票

次点 山根 毅 34 "

幹事（40才以上）

当選 高木良三郎 45 票

" 奥村 秀夫 40 "

" 松村外志張 33 "

" 沖垣 達 28 "

次点 高岡 聡子 27 "

幹事（40才以下）

当選 鈴木 文男 45 票

" 花岡 文雄 36 "

" 西 義介 28 "

" 常盤 孝義 18 "

次点 間中 研一 16 "

なお投票者総数は159名でした。

（会長・幹事選挙管理委員長 難波正義）

## § 研究会年一回案に関する郵便投票結果について

昨年末，新会長・幹事選挙と同時に，第56回研究会の際の臨時総会において決議された研究会年一回案に関する幹事会提案（下記）の郵便投票が行われました。結果は

賛 成 128

反 対 30

白 票 1

総投票数 159

でした。従って，大多数の会員は，現行の研究会年2回を，年1回の大会とする案に賛成であり，この結果をふまえて，次回総会において会則変更の手続をとりたいと思います。

(幹事会提案) 『現行の年2回の研究会を、年1回の大会とする。但し、現在までの本学会の特徴を生かし、研究成果発表時間、討論時間は十分に確保する。発表に際しては培養技術を重視する。従って、現行の会則第3条第2項、第12条、第15条をそれぞれ以下のように変更する。』

第3条第2項 年1回大会を開催し学術上の研究成果の発表および知見の交換を行う。

第12条 幹事会は大会を開催地および世話役を決定し委嘱する。

第15条 大会に要する経費は、別にこれを徴収することができる。』

(庶務幹事 大野忠夫)

## § 日本組織培養学会第57回研究会の御案内

第57回研究会は、初めて四国で開催されることになりました。出来るだけ多数の方に参加して頂くため、シンポジウムは一つに致しました。なお、ポスターセッションを行うかどうかは演題の集りぐあいによって決めさせていただきます。

### 1. 会場：高知放送会館(高知市本町)

高知駅から { 市電車 『はりまや橋』で乗換え(5分)、西行き『本町』下車(5分)、  
すぐ前  
タクシー 7分

高知空港から { タクシー 30分  
空港バス 『はりまや橋』下車(30分)、電車西行き『本町』下車(5分)、  
すぐ前

### 2. 会期：昭和59年5月25日(金)、26日(土)

### 3. 世話人：喜多村 勇

高知医科大学小児科

〒781-51 南国市岡豊町小蓮

Tel. 0888-66-5811 内2690

### 4. プログラム：

シンポジウム 司会 藤本重義

「細胞工学的アプローチの現況と展望」

内田 昌堯 (大阪大学細胞工学センター)

矢原 一郎 (東京都臨床医学総合研究所)

渡辺 武 (佐賀医科大学)

谷田 克 (千葉大学医学部)

### 招待講演

“Application of tissue culture methods in clinical investigation”.

Pearay L. Ogra,

Professor of Pediatrics and Microbiology

Director, Division of Infectious Diseases

STATE UNIVERSITY OF NEW YORK

5. 演題申し込み：昭和59年3月15日

申し込みをされた方々は、「組織培養研究」（抄録）掲載のための講演要旨用紙をお送り致します。（メ切 3月末日）

6. 参加費：2,000円

7. 懇親会：高知会館（会場から歩いて3分）

5月25日 午後6時（会費4,000円）

8. 宿泊：日本旅行（高知駅旅行センター）がお世話します。（Tel. 0888-82-4167）

### § 第3回国際細胞培養会議のお知らせ

既に会員通信でお知らせしておりますように、下記要領にて第3回国際細胞培養会議（3rd International Cell Culture Congress, 3rd ICCC）が開催される予定です。現在鋭意準備中ですが改めてご案内いたします。

名称 第3回国際細胞培養会議（3rd ICCC）  
主催 第3回国際細胞培養会議組織委員会  
共催 日本組織培養学会  
会長 山根 纈（東北大学，抗酸菌病研究所細胞生物学部門）  
事務局 東北大学抗酸菌病研究所細胞生物学部門内，松谷 豊  
〒980 仙台市星陵町4-1  
Tel. 0222-74-1111（内）3461～4  
期間 1985年（昭和60年）9月10日（火）～13日（金）  
場所 仙台市民会館  
内容 シンポジウム：「培養細胞の分化機能」  
詳細は前回の会員通信をご参照下さい。  
一般演題：ポスターセッション

Second Circular は今年（1984年）9月頃発行の予定です。ご質問，お問い合わせは事務局あてにお願いいたします。

（山根 纈，菅 幹雄）

### § 第3回国際細胞生物学会議へのお誘い

日本組織培養学会に積極的な後援を頂いている上記国際学会が，本年8月26日～31日の間，東京新宿の京王プラザホテルおよび隣接のNSビルで開催されます。Program作成は，阪大岡田善雄教授を中心に進展し，55のsymposiumとworkshopが計画されています。内容はGenome, Membrane, Organelles, Cytoskeleton, Cell Sociology, Cell Pathology and Aging, Technologyにまたがり，一般演題（Poster）もこれと平行して行われます。

申すまでもなく、細胞生物学は近代の生命科学の中核的存在であり、幅広い支持と注目を集めている分野となっていますので、この会議には既に65ヶ国からの参加問合せが寄せられています。

過去の歴史から見ても、1976年のBoston会議には4,300人、1980年のBerlin会議には3,500人以上が討論に加っています。本会議にも多数の外国人参加者が予想され、これにこたえる為には、国内からのより多い参加が望まれます。

特にもっとも関係の深い日本組織培養学会員の積極的な参加を希望してやみません。なお、Poster発表の締切りは4月15日です。必要書類ご入用の方は下記までご連絡下さい。

〒701-02 岡山市山田 2117

第3回国際細胞生物学会議

事務局長 沖垣 達

Tel. 0862-82-6332 (直通)

## § 「細胞成長因子」刊行のお知らせ

かねてより編集しておりました本学会編「細胞成長因子」が4月中旬には刊行される予定となりました。前回の「組織培養の技術」のときと同様、本学会員には特別価格でお頒けいたします。注文書は別途お送りいたしますので、皆様ご活用下さいますようお願いいたします。なお、内容概略目次は以下のとおりです。

1. 細胞成長因子研究の現状と展望
2. ペプチド性細胞成長因子 (EGFなど36項目)
3. 細胞増殖に関与するホルモン (インシュリンなど13項目)
4. プロテアーゼ (トロンピンなど6項目)
5. 担体 (トランスフェリンなど5項目)
6. 栄養物質 (アミノ酸など7項目)
7. マトリックス物質 (ファイブロネクチンなど8項目)
8. 細胞増殖関連物質 (ポリアミンなど10項目)
9. 生物材料 (血清など2項目)
10. 細胞増殖阻害物質 (ケイロンなど3項目)
11. 代表的実験例—EGFを用いて—
12. 付表 (無血清培地の組成など)

教育研究システム委員会

(「細胞成長因子」編集委員会)

## § アメリカ TCA report から

アメリカ組織培養学会の第35回年会在が、6月3日から7日まで、Texas のHouston で開催されます。2月発行の TCA report に、Abstract Form と登録方法の情報が同封されますので、参加希望者はご留意下さい。なお、会期中、米国、欧州、日本の組織培養学会共催による Round Table が行われます。タイトルは Serum-Free Cell Cultures で、Convener は、R. G. Ham, M. Adolphe 及び I. Yamane です。

また、TCA の重要会員で Nominating Committee の委員長である Dr. V. J. Cristofalo が、アメリカ老年学会の 1983 年 Brookdale 賞の栄誉を受けたことがその業績とともに詳しく報じられています。彼は、human diploid fibroblast の in vitro 系における cellular aging, 特に hydrocortisone による分裂加齢の延長機序を解析していた。

(三井洋司)

## § 編集後記

本号は、役員改選や規約改正の結果、及び研究会案内など重要記事が載っていますのでお見逃がしのないように。さて、今度、会長・幹事の総入れ替えとなり、編集幹事も交代いたします。さすがに、ほっとしているところです。必須の情報を、もれなく、正確に、期日にまにあわせて伝達する為には、自分個人の実験などは少々犠牲にして原稿を集めるなど、気を使うこともあります。他の編集委員、ことに、身近かで助けていただいた山本会員の労に感謝したい。同様、いやそれ以上に、雑用、気苦労をなされ、大任を務められた会長をはじめ、他の幹事諸氏も大変ご苦労様でした。五月の新旧合同幹事会、総会等での正式引き継ぎをもって、新体制の発足となるのですが、研究会その他重要事項の円滑な運営の為には、新旧協力し合った活動がもう始まっていて良いと思われま。

任務の引き継ぎにあたって編集幹事の行ってきた務めを記録にとどめて、次期編集幹事及び会員諸氏の参考に付し、ご協力をお願いしたい。

- ① 「会員通信」の発行、……特に研究会案内は、開催時期、印刷、郵送を考え合わせ、絶対に遅れないよう世話人と協議する。
- ② 「組織培養研究」の統一性維持と一部編集、とくに、short communication など研究会発表要旨以外の原稿について、採否 (review) の arrange と編集に責任を負う。
- ③ アメリカ及びヨーロッパ組織培養学会に、会員通信の英訳要旨を郵送する。逆に、これら学会からの TCA レポートを受理し、会員に必要記事を知らせる。以上

最後に、二年余の編集を通じて、原稿執筆などのお世話になった方々に御礼申し上げると共に、新しい編集幹事を中心とした活動に、会員皆様のご協力をお願いする次第です。

(三井洋司)

10/10/10

Dear Sir,  
I have the pleasure to acknowledge the receipt of your letter of the 10th inst.

and in reply to inform you that the same has been forwarded to the  
proper authorities for their consideration. I am sorry to hear that  
you are unable to visit at the present time, but I trust that  
the authorities will be able to assist you in some way.

I am, Sir, very respectfully,  
Your obedient servant,  
J. H. [Name]

I have the pleasure to acknowledge the receipt of your letter of the 10th inst.  
and in reply to inform you that the same has been forwarded to the  
proper authorities for their consideration. I am sorry to hear that  
you are unable to visit at the present time, but I trust that  
the authorities will be able to assist you in some way.  
I am, Sir, very respectfully,  
Your obedient servant,  
J. H. [Name]

10/10/10

Dear Sir,  
I have the pleasure to acknowledge the receipt of your letter of the 10th inst.  
and in reply to inform you that the same has been forwarded to the  
proper authorities for their consideration. I am sorry to hear that  
you are unable to visit at the present time, but I trust that  
the authorities will be able to assist you in some way.

I am, Sir, very respectfully,  
Your obedient servant,  
J. H. [Name]

## § 住所等の変更

氏名	新所属機関・同住所地		備考
井上 達	横浜市立大学医学部病理部	232 横浜市南区浦舟町2-33 横浜(045)231-2081 内線 245	p. 5
○田中 義夫	農林水産省家畜衛生試験場 製剤研究部 ウイルス製剤研究室	305 茨城県筑波郡谷田部町観音台 3-1-1 筑波谷田部(02975)6-7859	p.27
常盤 孝義	岡山大学医学部癌源研究施設 病理部	700 岡山市鹿田町2-5-1 岡山(0862)23-7151 内線 2614	p.29
○徳井 忠史	農林水産省家畜衛生試験場	187 小平市上水本町1500 小平(0423)21-1441	p.29
吉田 昭彦	ゼリア新薬工業(株) 中央研究所	360-01 埼玉県大里郡江南村大字押切 字沼上 2512-1 (0485)36-3456	p.50

## § 住所等の変更

〔賛助会員〕

社名	住所	備考
アミコン株式会社	102 東京都千代田区麴町1-7 東京(03)264-2491 (加藤好雄)	p.57
三光純薬株式会社	担当者のみ変更(学術課 山本桂己)	p.58
太陽酸素株式会社	556 大阪市浪速区元町2-1-1 大阪(06)647-1871 (低温課 宮本清一)	p.58
株式会社東海医理科	ビル名のみクリハラビルに訂正	
社団法人 日本化学物質安全・情報センター	105 東京都港区虎ノ門1-13-4 東京(03)434-8891 宝寿会館ビル4F (調査部長 大島輝夫)	p.60
日本フロウラボラトリーズ(株)	102 東京都千代田区飯田橋4-7-10 東京(03)237-0844 p. 飯田橋セントラルビル8F (代表者 高瀬譲治) 60	
富士レビオ株式会社	社名のみ変更, 旧富士臓器製薬(株)より	p.60
山之内製薬(株)生物科学研究所	174 東京都板橋区小豆沢1-1-8 東京(03)960-5111 (細胞生理研究部 小原 侃)	p.61

1. The first part of the document discusses the importance of maintaining accurate records of all transactions. This is essential for ensuring the integrity of the financial statements and for providing a clear audit trail.

2. The second part of the document outlines the various methods used to collect and analyze data. These methods include direct observation, interviews, and the use of specialized software tools.

3. The third part of the document describes the results of the data collection process. It shows that there are significant discrepancies between the reported figures and the actual data collected.

4. The fourth part of the document discusses the reasons for these discrepancies. It identifies several factors, including human error, incomplete data collection, and potential manipulation of records.

5. The fifth part of the document provides recommendations for improving the data collection process. These recommendations include implementing more rigorous controls, providing additional training for staff, and using more advanced data analysis tools.

6. The sixth part of the document concludes by emphasizing the need for transparency and accountability in financial reporting. It calls for a more robust system of checks and balances to prevent future discrepancies.

The following table provides a detailed breakdown of the data collected during the audit process. It compares the reported figures with the actual data collected, highlighting the areas of discrepancy.

Category	Reported Figure	Actual Data	Discrepancy
Revenue	\$1,200,000	\$1,150,000	-\$50,000
Expenses	\$800,000	\$820,000	+\$20,000
Net Income	\$400,000	\$330,000	-\$70,000
Assets	\$500,000	\$480,000	-\$20,000
Liabilities	\$300,000	\$310,000	+\$10,000
Equity	\$200,000	\$150,000	-\$50,000

The data shows a consistent pattern of under-reporting revenue and over-reporting expenses, which results in a lower net income than what was reported. This pattern is observed across all major categories of the financial statements.

The reasons for these discrepancies are primarily human error and incomplete data collection. In many cases, transactions were not recorded at all, or they were recorded with incorrect amounts. Additionally, some transactions were recorded in the wrong period, leading to further inaccuracies.

To address these issues, it is recommended that the company implement a more robust system of internal controls. This should include more frequent reconciliations, improved data entry procedures, and additional training for staff. Furthermore, the use of more advanced data analysis tools can help identify discrepancies more quickly and accurately.

Finally, it is crucial for the company to maintain a high level of transparency and accountability in its financial reporting. This means providing a clear and complete audit trail for all transactions and being open to external audits. Only through these measures can the company ensure the integrity of its financial statements and maintain the trust of its stakeholders.